



秩父路紀行 / 長瀨岩畳編

2003年5月3日掲載

せっかくのゴールデンウィーク、天気もよさそうなので、1泊2日で出かけることにした。今回の目的地は「秩父」である。

しかも、幸いにして連休の谷間が休み！ これを使わない手はない。

朝10時、練馬ICから関越道に乗る。途中高坂SAで休憩をとり、1時間足らずで花園ICに到着した。

ここから国道140号線「彩甲斐（さいかい）街道」で秩父方面へと向かう。寄居を過ぎると、有料道路のバイパスと旧道に分かれるが、否応なしに旧道を通ることになった。

旧道でも、決して走りにくいわけではない。ただ、ちょっと遠回りするだけである。

バイパスはトンネルが中心なので、景色は川沿いを走る旧道の方がいいはず。まあ、手元の地図にバイパスが開通していなかったのもあるが。

昼前に長瀨に到着。国道からそれると、長瀨駅前を中心に駐車場が多いのだ。

しかも、どこも1日500円。それなら、一番岩畳に近そうなところに車を止める。

河原に降りると、ちょうどライン下りの舟が出発するところ。しかし今回は敬遠し、岩畳を散策することにした。



岩畳をよく見ると、岩の間から木が生えているのだ。しかも、藤の花である。また、水たまりにはアメンボやオタマジャクシが泳いでいた。

そろそろ腹も減ってきたので、近くの秩父高原牧場へ。山を登り、見晴らしのよい稜線を走ると牧場に到着した。

秩父高原牧場内にある彩の国ふれあい牧場で、牛乳とアイスを食べる。しかし、肝心の食事はできずじまい。食堂は休日のための営業だったのだ。

すでに2時を回っていた。仕方なく、山を下りて10kmほど離れた吉田町の道の駅で食事をすることにしたのだ。

[\[トップページ\]](#)

この続きは[次回](#)！



秩父路紀行 / 華巖の滝編

2003年5月11日掲載

1泊2日の「秩父路紀行」の2回目である。
1回目は[こちら](#)からどうぞ。

吉田町の道の駅に到着。時刻は3時である。
「さあここで昼食だ!」と意気揚々に中へ
が、しかしである。無情にも「準備中」の看板
が掛かっていたのだ!

すっかり意気消沈。やむを得ず、近くのコンビニでパンを購入し、軽めに食事をする。

コンビニに寄ったついでに、秩父華巖の滝の場所を調べる。実は、手持ちの地図には載っていないのだ。

このあと、地図が元でとんでもない事態が起こるのだ。

秩父華巖の滝を目指すため、県道を走る。このまままっすぐいけば、峠を越えて滝まで行けるはずである。

しかし、しかしだ。道はどんどん細くなり、しまいには未舗装に。そして、行き止まり。

どうも、途中で右に曲がるべきところをまっすぐ来てしまったようだ。しかも、直進の道が地図に記載がない。

さらに、地図に記載がない分かれ道にさしかかった。こうなったら、勘を頼りに進むしかない。

まあ、何とか華巖の滝に向かう道に出ることができた。今まで必要ないと思っていたが、初めてカーナビがほしくなった瞬間でもあったのだ。

そんなこんなで秩父華巖の滝に到着。時間も



夕方までましてや平日なので、観光客もいない。

マイナスイオンをしっかりと吸収し、近くの秩父温泉へ。日帰り湯の「満願の湯」に入る。

ここには露天風呂もあり、目の前には小さな

滝もある。道に迷った疲れも、すっかり癒された。

秩父温泉をあとにし、宿のある児玉町に向かう。途中、麦とろ定食を食べ、しっかり腹ごしらえをする。

宿に到着。さすがに疲れ、10時半には寝てしまった。

[\[トップページ\]](#)

次の日は[こちら](#)に続く。



秩父路紀行 / 三峯神社編

2003年 5月17日掲載

ゴールデンウィークの「秩父路紀行」の3回目。1回目は[こちら](#)、2回目は[こちら](#)をご覧ください。
ただこう。

2日目の朝、8時半に起きて10時に宿を出発。
三峯神社を目指す。

その前に、朝食がまだである。秩父市内の観光イチゴ園で、イチゴ狩りをする。

イチゴのビニールハウスの中は、イチゴの甘さにおいで満ちあふれていた。イチゴは甘く、コンデンスミルクなんて必要ないくらいである。

イチゴをたらふく食べ、三峯神社へ向かう。
秩父市内からでも、1時間はかかる道のりだ。

途中、待ち時間の表示がある信号機を発見。
しかも、やけに待ち時間が長いのである。

それもそのはず、信号の先にはトンネルがあり、道幅が狭いのだ。それだけではなく、トンネル内で道が分岐するのである。

長い待ち時間を過ぎ、ようやく青信号。二瀬（ふたせ）ダムの上を通り、三峯神社に通じる山道を登る。

気づけば標高1000mを超えている。今回の旅の最高地点でもある、三峯神社に到着した。

神社は、創建されてから1900年たつとのこと。そのため、本殿は改修中で白のシートに覆われていた。



本殿の脇に生えている杉も、樹齢何百年はたっているだろうか。幹の周りは、4mはあるに違いない。

境内には宿坊があり、日帰りの湯もある。しかし、ここでは入らず、山を下りる。

来た道を戻り、再び秩父市内へ。途中、大滝村の道の駅で昼食をとる。

秩父近辺は、不思議と道の駅が多い。ほぼ1つの自治体に1つの割合で設けられている。やはり、産業の活性化と観光PRの一石二鳥を狙ったものであろう。

道の駅では、秩父名産のそばを食する。手打ちで腰のある、麺類フリークにはたまらない美味だ。

次の目的地は、芝桜が咲く羊山公園。この模様は[こちら](#)に続く。

[\[トップページ\]](#)



秩父路紀行 / 羊山公園編

2003年5月24日掲載

今月お送りしている「秩父路紀行」も、今回がいよいよ最終回。1回目は[こちら](#)、2回目は[こちら](#)、3回目は[こちら](#)をご覧ください。

国道140号線で秩父市内にはいると、ちょっとした渋滞に。まあ、東京の比ではないが、ノロノロといった程度である。

秩父市内にある道の駅でおみやげを買い、羊山公園に向かう。この時期の羊山公園は、芝桜がきれいなのだ。

平日の夕方ということで、芝桜植栽地に最も近い駐車場にも空きがあった。これが連休中だったら、どうなっていたらう？

芝桜を見る前に、名前の由来にもなった羊を見る。1頭が「メェ～」と鳴くと、ほかの羊がそれに呼応するかのように「メェ～」と鳴く。

また、子羊が2頭いた。触ってみたが、ウール100%は気持ちいい。

さて、いよいよ芝桜。6種類15万株の芝桜が、秩父夜祭をイメージしたデザインで植えられているという。



あまりにピンクが鮮やかで、ずっと見ていると目がおかしくなりそうである。しかし、遠くから見ると美しいことがわかる。

それにしても、平日だということに意外と観光客が多い。やはり、あえて連休をはずして訪れる人が多いのだろう。

芝桜を満喫したあとは、温泉に。羊山公園にほど近い武甲温泉へ向かった。

武甲温泉に着くと、時節柄このようなものが出迎えてくれたのだ。



その数、おおむね200尾。風でなびいていると
圧巻である。

武甲温泉の日帰りの湯にも、バッチリ露天風呂が。つくづく感じるが、日本人には温泉である！

温泉からあがり、再び鯉のぼりを見る。風がなくなったため、鯉のぼりが「目刺し」状態になってしまっていた。

最終訪問地を出発し、いよいよ秩父路紀行もフィナーレ。飯能、所沢と一般道を経由し、自宅に到着した。

実は次の旅行もほぼ決まっているが、これはまだヒ・ミ・ツ！

[\[トップページ\]](#)